合類
增補

頭書一言芳談抄

珍
初刊本

188.64
Ta896h
h

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

標註增補一言芳談抄

論語爲政篇云子曰
詩三百一言以蔽之
曰思無邪

大法句經誡誦偈云
雖誦千言我心不滅
不如一句捨憍放逸

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

188.64 Ta896h h

目録

○序　○凡例　○僧傳
巻之一
○三等　○清素　○師友　○無常
巻之二
○念死　○臨終　○念佛　○
巻之三
○学問　○用心
巻之四
○異本雜附

国立国会図書館 26.9.10 図書館
245262

標註乙言芳譚叙

德行之本也。學問之末也。教人又其末也。苟知其本末則近道矣。是以本邦之古。堅操雅行。不乏其人。迨乎世遠撲散。僧者不敢覬覦於道德焉。或有涉獵群籍。而衒博學者。或有狂解玄理以誇放曠者。甚而至以說法爲藝能。以念佛爲活業。皆是鈎名射利。弃本徇末者也

和州 万法寺

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』　請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

先賢遠爲此慮。采輯古德要語。以貽於後昆。命之一言芳譚。分卷上下。撰者逸於其名。不可考也。余熟讀之。辯而不華。質而不俚。往而視。似乎淺近。仔細玩之。日覺意味之深。可以冷沉酣名利者之肝腸也。於今可見古人之德行者。獨賴此抄之存。信道心者之由戶。不可一日汲癈矣。然此篇雖存。而知者鮮焉。雖復有知者。孚信者焉。自從兼好法師。曾引用斯言。人知其可尚也。可謂後世知玄者焉。惜乎舊本不拘類次。槩焉襍集。讀者或倦蒐尋。因今愍事校讎。類而聚之。且加標註。付諸剞劂。有客率爾而謂曰。這箇一言。如折鞦線。豈足以稽道蹟哉。矧是和字之譫陋乎。予曰固哉客之言也。夫衛人之設言也。與吾儕異

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

焉。履真尚朴。正直述其志而。不以偽飾爲事。所以一言能饒益乎人也。足以垂布千古。爲行者模範。文用倭字。先贊爲人之意也。子寧以囊弊弃其金也乎哉。

容唯々。遂筆以爲序

元禄元禩中冬中浣日

雒北報恩壍祠湛澂謹

凡例

一 いはゆる撰者はそれとも云まじ。はたいかなる人ぞ。思ひよらぬ。されどあるよりのちまでは三百餘年をへたり。書すり

一 いはゆるまじ。次第と渝ぜびもてをるせりこれだ。祈とて。はなはだ。なるあいま。多とわろ。前ばかりそぶしと。そぐかりなきよあ。次それでもすをたづよん。時に見ちやを。きたわとしなるべきがゆへ。うかく。祈とは。ゝため。わ。回ちとしてべてとこそれんよ。何のさそうあ。部分れ。標註も。類別。閑合あ。ものべ。彩色よ。似ることあり。ゝるべし。次第とは。はをじ。さは。祈わり。文字のきはをを方ちちて。てをくに。何らたあじ。かづひ。たづひ。ゝろこ。ろあ。ものゝ。なきばあ。ぐらよあ。ゝめ。歌

一 四句の文よむを付て法師を換て
うせ脱落をかなしみ給べし
一 是ぞ対機にて四句をもれたる
まゝにて侍るなり
一 こゝろ標註に肝要なりとて法然
ひろく機をもちゐる法門を引んとも
はゞかるゝことなるべし
一 仏物よのもろもろの上人をもらはいぼ
を云てむる道ゝ人もてこゝろ
をしば他宗にもちゐかのいはるべし
分をとはまその初よりこゝろをすかほく
は浄土つの人をも
仏物ハいふも浄土つもちゐる物をもちゐ
ものゝ是谷御他変答なるべし
別ハ有おとゝるべ

慈圓 山門六十二代座主諡号慈鎮 忠通公御息。月輪殿弟ナリ

顕真 天台座主権僧正籠居大原専修念佛ヲ有勧化ノ消息ニ

明遍 少納言通憲息。法印敏覚ノ才子 三論ノ達者、後隠居于高野蓮華谷

教信 事跡詳于日本往生極樂記及往生十因

聖光 法然上人ノ高弟。鎮西流祖別傳一巻現行于世亦載東國高僧傳

俊乗 本真言宗住上醍醐後師ノ子法然上人ノ専修念佛終東大寺

法蓮 信空別号稱弁尤大弁行隆長男後師ノ子法然上人住洛東白川

禪勝 本天台宗住遠江國蓮華寺後師ノ於法然上人受法義

然阿 聖光上人ノ上足才子良忠上人也 諡号記主禪師有御傳一冊

敬蓮社 於真如堂聞聖覚説法直至鎮西師於聖光上人

明禪 桑議成頼卿息。山門檀那ノ嫡流。知海法印ノ面授

解脱 藤原貞憲之子譜ハ貞慶脱白 奥福寺止山列笠置窟

心戒 阿波守宗親壮年遁世居高野山修行諸國見長明發心集

乗願 本真言宗兼学台教後師ノ法然上人ノ専修念佛住清水南竹谷

聖覚 入道少納言通憲孫子。澄憲法印真子後師ノ於法然上人盛弘其義

正信 本叡山住侶後發心入念佛門師事法然上人住二尊院号湛空

覚明 九品寺長西也依出雲路住心上人弘諸行本願義

小倉入道 薗田太郎成家号智明 法然上人才子住上野國小倉

本覚 聖光上人才子 鎮西人也

行仙 聖光上人才子至極隠遁人亦禪勝房才子有同名

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

敬佛　法然上人才子住常陸真壁後師於明遍僧都寓高野

悉阿弥陀佛　聖光上人才子悉空欽

顕性　善恵上人才子住長門

信澄

願生房

寂願房　明遍才子

蓮阿弥陀佛　聖光上人才子亦隆寛末有同名

敬日　隆寛律師才子学生也本住山門名慈信

證蓮　仁和寺昇蓮房、乗願上人才子也

中蓮

慈阿弥陀佛

阿耨房

心佛　敬佛才子

善阿弥陀佛

㋑ 穢土のすハ　毛肝あれ　たしく　住不とりあれハ　ら光陰をつゆ　て会れと。ひまもなさ　なとよ。せと　すて〳〵ふよ　る人ふよそも　とうに対ハいづちゆくらん　恵ぬ有集よすめ　ばまたう　き世ありくよそ　なぐうそひ　しまれ山里をぐか　千載集よ　㋺ 旅よあくる　空なさうき世れ中とも　ねまいづくもゆびのそ　そとれ

標註一言芳談抄一

○三等寺　居服食

㋑ 明遍僧都云。穢土の事ハ　ばくも　んよかるへき道理あるべ　らしめ罪　とハんよ思ふべきなりたとへ　ば風よあへる舟中にて　道へ　ゆさ。舵へゆんとせんがこと　㋺ 敬仏云。後世ハ　ぶつも旅よ　ちひよ住とは　なりたとへ海乃　そそにけとも　ぶ分のあんりざ　ひとかさのごと　れ衣食住不　なく

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』　請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

てハ。ふだをうづみ。ねんぶつ。
申。世せざるをしらぬほうり。
うりそんなりつるよ一ぬの
屋どりにて。始終ぢみかり
あるずしたねどうふさりるく
会仏乃ようせ

(八) 明禅法師云。長日のゆうかた
ぬいたるゆんかるひらん
よはもれ。ぐおそれ不覚人ハ
一定。往生ぞうとおぼしいそり

(二) 高人のいくこう聖は元仏の法師

(二) 高野の元仏房仏
四位侍従ぞうの

(八) 一定 さぐて往生すべ

世中なりてもかくてとおもと
やもうもうやもうそーなれ

姑洗のとしかよあるに十四ニ云
實ニ一生ハ假ハ豈期ニ永代ヲ
予已上

宝ハ。ものうらいらひの。ねんぶつ。あるぞよ
てとこうぶかれりそうぶようり
なんとぞ。河乃ありけり同さやう。
ちつひぶかんとりまれば。屋
くあるべうに。是又。肝離れ
たりなりよりと思ひてかとめ
て。無益かりとぞおぼそうまけり

(ホ) 有人のいくこう戒上人ハ孫ハ路長ハ
ぬ成人ハ。その人と同ぜれば。三界ハ屋
よハ。公やとくごろ乃ハ。ねんぶつ
屋ぞ。こころ乃なきゆへ也と

(ホ) 路長 ついやうまとくと。
ちりとぞすんぬ

㋩ 猛病なるより 関東
みなんハ大膳して命をうく
るゝ。京ハ官づかなるゝごろ
そ常住のかりひよりて。
命がけくるゝそのごく
初心の人居家をこりて
ハ。なれてむやうれども常住
の念心をすまぬ内ハ。公ん
すみとしてのこいわんど
歯をなる横 凡流はし
てをばるるたるのゝ

㋥ 円宿 おなじやうみやど
かすなりきとゝ

㋭ 敬仏房云。むしれ坂東の人京よ。
みがぬもの。病なるとい
ふ。生後世ゝのゝ光こ分ハ
ふ。公すむをどいふるそ。さか
なきでも名利をなるまくのう
へのるゝ。法と為なる横ゝ。
うそをるゝ。ぐるゝ。ぐるゝ。ぐるゝ。
のすむと執するゞゆへよ猶住ゝ
人がはくハ。ひごるよゝかしく

㋭ 敬日上人云。道世ゝ三
乃口侍あるゝ。ハは円宿ニよ

㋚ 後世ゝの住ゝ 名聞
うれ居。なでせゝとゝ住
ゝ。一分をやどにを不見ゝ
しにそうゝのあれなるき
ま方ゝ記とるゝべし

㋩ 会仏たよりされい この
いたゝめ法ゝ上人の心ゝ先を
円ゝ孫場ゝよりゝ

孫なれ。後世者どもの
居をなるべゝるる取り不
可住。ニ月ハ。道世ゝれバて
日東の有相をゝくゝし
ふて改ゝ

㋚ 侍教記云。住世ゝれ住不
ゝ。三回ゝ不ゝ。謂一月を
打仏堂一月ハ住不一回ハ世ゝ
不なり

㋩ 或人。明禅法ゝにたづゝよて
云。北人法師ハ。ゝるゝ不ゝ。

る山道を修行僧四十ばかり。
とく会社のようにやうな
せしとかや
境内　女人ちろきところ。富
士の山のあるうり。人立のあり
きところ。初さてびーさ変か
どせいよむ春分のもいろ
又　元食　妹よりのうる
修行　行脚のるる
絶ともれつへさ依和　源氏物語
へらところ
仮宜れ婿矣　勝手のよわし
この業　思業し業と
ぞうりいふる源氏物依る
どよおり

一言芳談抄　終一

仏をどをけらん。作云。会仏
だよりされぶうるる而ようて
をおりうん。会仏のさうとか
うん而ぞ。けーかうどき。但。境
内をぱうるるどさうり
又　る云。元食源切の次う。我
拠名聞を過て。ぶえげふ怪
世のけとあをもし絶ともれり
べき伝て。仮宜れ逝失などを。
う孫て。よくく思意し。凡さ
だんて。れくべきこ怪世のて

四　如形　まねのやうよりて
非人　たで世すてのる
法財　るうひし仏法のる
資源　衣食住に仏法ばり
をなるる永縁あり
えぞ　方丈記
茨の衣鄙の宿まうるる
たぐひてえぞ　ことかし邪魔
つだる花のこちく命とづ
ぞうり

法なさりのをおれ業ぶ。な
さりり
四　又云。如形も非人をそて。
仏やちく会仏をんとぶをん
りのる。出世れ法財。なれす
開る。況世るの資源ハあひ
かまへて。事すくなれれ
りふるもひすべきぐぐ
とかて。縁をたぐるもも非人
の為。お意して。お縁の仏
ぞし。きがさぬやうりたくむ

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

㋕ 播磨上人　性空上人歟又播磨のむまれてゐ歟よごとり人歟

文凝抄下云一切衆生受生時第八識具衣食住三事如野鹿食草衣皮披野邊外不尋自無覓既知因果必然理勿近諂人門唯可任天冤報況又捨身命帰佛法諸天善神擁護除諸災難人々福祐自在故云無貪三宝也已上

㋖ 紙さぬよ　かしこのぞりつまとぞそろへてぞんとすれ。

㋗ 有云解脱上人食すれ氣味ゑうるをとりみてそのへそれ抱り。水をのいきのひさ

㋘ 播戸上人衣裳を思炊。

る野を延出し。大門の色して。麻乃衣を毛よりひろりそとかを見くく立うりて住心

㋙ 明遍僧都云事ざねよ。ふんぱくろう行のゑふ。ふく人不覚してをけ

なし紙多と乱しかざる心あり

㋚ 遁世とあしくんて　されバとれ世の遁世ゑよハ貪の字とかくべしとそり

㋛ 时移り俗　食すとを。おむづき移りのるもこと入異　一所かりろく奥ひろるるよりゑ。ゑ急好ある时。計料ゑえて。ゑ祈たま。ぜふもたりとの移り乃ゑ。ゑと俗ひよとそりあり

○清素

㋜ 敬仏房云。むしれ人ハ世ハ世をつ祈りをくくきくするかなるまひとをきられを乃ハ遁世ハあをゑしてかへ

氣黒

あいうる也

㋝ 或人时移り俗れようとき。さて入異れ乃あれ事。ゑ云。世ハ乃ゑ。ひりさまハけりをとそかをりあるこ

245262

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h　ガラス使用

㋕なふとも　人も名具もあるあひはすくさ衣食住とゝのりあひがたきを。すてあるくばんぐーとしるあ。みれば中くんやをたしる

㋝ぐんぐのあ　めるこそてがを山ようをく沙石集よあり

㋝拾ぐろう　執ぐこれかあ　るくされば山ーし。弁をむーて錄冕とあり。衣とむーして蛇とあり。筆をむーして虫やなり。花をむーして蝶とあれ　ふたぐひなるう

てあれとてあれ

㋕敬仏房云。通世云ハ。なふとも　もなきに事闕ぬ程とったらひ　つけふるましいをそるぐよ　きあり

㋝後家房云。後世を。れもちん　りのぐんぐあ一をもつまじ　きとして。ものしてて人

㋝或上人。同法と誠云。あるほ　しぐとはひて。俗をすくて。　拾ぐろうなるふとを

㋕同朋　にはともかくく　れなくあすの弁みるく　とのまハ　くくしてもうんと　執をるふあるとく

㋕行基曰　ふぶおやーさ　紫乃庵よをめどもぐーと　あり時はかうぐはりふ　も分よかりてもつーさし　たくんば樹よるのぐをめて相　てかくもがごくーたぐろう人　よくくぐんんよをもーて人　上人の俗流をりてを。さて　がとはきまてはげよもとぐか　ばゆ

㋝天慶河衍論　を奏　楽考

○二人さも　親子兄弟にて

㋕敬仏房云。同朋を呼しあ　云をのきハ苟義貞れ　をめんぐるりの

○師友

㋕下は村意阿弥陀仏云。基　曰。常作他体。自真為を　人のをよ入をるぐ公ーやを　るりてあるあり

㋝有云。尺慶詞衍論ハ中よ　一宝に二人も位をるん。そぐ　ひーー。ものやまー。ん何換ぐぶ

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

も一室よりて中ばかり
多ばかり
㋐人といふべしに高
き人といふもひがごとなり
是すべば悔恨よりなほ
き仏房なるべしかるべ
てげまん関係なりの西
仏房ばかりなる仏国寺のもと
ろくに黒谷明恵上人の
住ばかり○みひとは塵俗よ
ゆるれい得よりはてたんもさ
めやすしぞまづられいの
づくろもとりろくし
佛語経云比丘在聚落身
口精勤諸佛皆憂比丘在
山息事安卧諸佛皆喜已上
永嘉曰未得道而先居山俱
見其山必忘其道已上

㋐人云。道を学ばんとする
人といふべしに。位ゆえ人
とかれそうとひがめんなり。
いとゆゆしきなり。ぬくく名利とふ
ゆゆしきなり。称又凡夫の人を
猶別にして邪治なれば
甚くく名利をとりかさね同り
一切人あひ同くそくしむ
をさあるもおほくなるべ
かくべき邪あれどさなり

かくべく佛祖の教誡とのく一致ならるべし○法華上人云ひろひて会佛とされずば同行と共行てとをし共行してとされず一人とり
わてとしし云
㋒法華上人ゆゆしきことん極
世よりあり安楽ゆゆしくて
て安楽ゆゆしくめなり
龍舒居士云凡起居飲食
語黙動静皆不忘浄土
則此身雖居五濁而其
心已浄土已上
井衣荷ぎら。かるこのた
ぐひ
○法頁竹のかげれひとり
降行志のひまるもの

○一無常
㋒法華上人或人云。とくく云。
人の命はうまれ地獄たに
よりひくぬをそをあるもの
あるなり志うれい南無阿弥陀
仏とかそて南無阿弥陀仏
くをとのみ入をし
井敬仏房云。求衣荷篠員など
抛しおひしるは。法を用新
云とちうざほ也。あいかまん衣
ヒ生ハ一和尚屋ぐり義幻先

○故実　故事実録のこと
○生涯　涯ハ際なり一生涯のかぎりをいふ
○思がけなきことも　新枕　世の中よ　世代ときもいひだかりなハ世げなんなるあきゆめとかりいおさびい　新撰古今に　そもまたはるなるさ世とこふをとてうさそりふしれるぐさうよすす　思好　家集よりうきことも志げ心うれ世のゆとつくなどいふわが分なるしん
○世相　世事迷惑の名理

世。をかくてをありかんと
志実ふりそめべきなりは世
をかふ　故実ハ生涯とろ
そしいきくあんと今日ど
かり。そいまだりやを志実よ
ふをさもかくそんバ思がてき
ともを。ふれだれて世
のはとをんをいさ申きしかり
をめるも一初とくうむむりれ
ぬなりがにあるつきバとを生
のる。かるれがしい切れを

○詮要　不論肝要なり
○一年　二百六十日　一年ハ
日ハ内ハ吉日とハいふ人の
志ある日とハいふ一礼渡
ハ一切縁組時とあるとハ
忠上人の記ハ吋く対とハ
縁組のかりひとをとハ多

ん出とも出来也。其ハ三十余
世相をとりく相助て。今日まで
僻ハと。いぶそでハかり今ハ
どりかしまでハふしがもも
の年までこハあどさりき
今ハ思ハせまりげいたどり
どりとくるとく出離の論
安芳城ふりかくれまあるし
②解脱上人云。一日三百六十
日ハ。こを安芳にまがふべき
ありをハ日和十二時を

去しみぢ拾雪丸きさみこん
ぬべし
㋐ 敬仏房云。或時仏仏房ち
ゝ云。世ゐ丸ち丸ち振法蓮花ちの
ゐと作るのかるべしをぢぐ
を敬ふ中に宗とあり
こゝ法ちゝしだ。ちゝを作ること。
いふぞかし生死二三年ぞ
ひゝちゝるふハ世とゝ乃ゞきて
る分ゝく云者と云どして。
だよあゝバ法云ちゝべし

○そひゝろ 敬仏房心ゝ乃
よゝはゝゝそひゝろ

㋑ 比叡の山社 山王権現の
ゝ七社中の大宮二宮を
大比叡小比叡とふひえ
山のふりとよゝ
○かんなぎ 巫女とかゝみこゝ
○ゐま女房 生嬖しびゝゐ
○十禅師 山王七社の
才六番ゝ社ゝり

㋑ 有云。比叡乃御社よゝはゝ
てかんなぎのまねをゝる
さゝ女房ゝ十禅師の出前ゝて
和ゝゝ源人ゝづまゝてゝて
いゝゝくゝゝしたゝみとゝゝて公を
四しゝそゝゝ乃ゝまくゝこゝてゝ
そゝてゝひゝぶゝくゝとゝうゝたひゝゝ
其人を人ゝ。ゝゝ四まくゝ云。
生死無常ゝ者ゝ者ゝ
世のゝ中ハ。ゝゝをかくゝてゝハゝ
ゝ世とゝたゝとゝ作ゝとゝゝりゝ

㊥世界は不定よ　世界も不定なり此身も はかなりとし

○あるきりあるべき
身をやまひとうをもうれ人の死をさく時。世はさえがき時なり

○うちうちまひる
ぱねをぱるぎをあるする
ゆがぼかるる者は仏なりとし

○いろふ　えんは　色ふをいとあとよりとあるべきとか
きあやまりうるへし

㊥敬仏房云。某は今にそれて。世間ふ定なり。此方のあるなる身とりこうふあひぎわ言うは
きて起居れうるまひまでふ
おやうさ事かほく。ゆるゆる
仏房ちぱふなぶみうあぐき。
かりうまぱ。さてもちひを
さる氣をなさしまして。
うちうまひをあるさま
をどぱよふふるもなぞう。
みゆるうぱ。されば是第八

口六何ト云ヒノ義カ

ムヒ者ハ口ヨリ入ヨハ
ムヒ入ケテ口ヨリ出ス　一義

㊥死ぬのちつきたる
人しかるべて死すべし
とかくへ法ばりすむし

とりうしもぱいふいちんふいぱる
ぱかるべぱいさてうみりこしぱ。ふ
よりせてうえれすせ
㊥聖ぜん上人云。日来ぱをかよぱご
世をふ柄なりの行業を
ぱと迫物するあるお死ぬ
りうづさうをおふ屋こ
なると

標註一言芳談抄一終

㋕ 平芳　病氣のこと

かご負　俗りんの背ゝ

標註一言芳談抄二

○念死

㋕ 敬仏房或時ゝ作云。年來死と。をそれさるが理とこゝろえ。ひたゝらかりてゝ平芳もをこし。ゝきゝ程はたゝれば。ゝらぶでやゝんぞゝんと。ぎゝのつゝゝゝせゝれば。ゝゝを出房をゝれゝごゝ負ゝゝゝよゝし。ゝゝゝゝんと。ゝゝあひゝゝゝゝとゝゝゝ。たゝてゝゝゝゝ

はかなくしてこそ
除滅要変ふし須是不得怕
死とあり遺教経云此是
應捨罪悪之物假名為身
没在老病生死大海何有知
者得除滅之如殺怨賊而
不歡喜也

物となりぬるこそ世のうきもかひなけれ。はかなくはこの身とぞうしなひぬる。みて死とそ孫がゆ喜楽とこそ乃ひつさかりとこそ世の極たる死のすゑ。

㋐ 又云。世間出世極楽。愛念だにねんごとに。せんかばきてねんごとこの身とおもひ。一切よりはいきとこの身とおもひ。命はかりしむしりに一切はさこそ。そのうちにあやまりつく。ちりもしぬべきこと。ねずもとばかりもゆとくおもひ

かりもとくしてば我も人も実
よほどもとくもとくもとくもと。
ちんぬいかんもとくもとくもと。
けくたてぬ。ぬうきもとくもと。
出れりとぬりのがきもとくもと。
をうざうなりとぬうきもとくもと。
乃師とおもとくもとくもと。
厚槃経
ぬうきもとくもとくもと。

㋑ 弘性房云我は遁世乃始
めとしてぬうきもとくもと。
疾
ぬうしもとくもとくもと。

㋐ 道理とうくもとくもと。
ぬの師とおもとくもと。
脱とくもとくもと。

㋑ ちく死とや 世すはあ
物のとくもと才みの四苦とも
べし諺註とくもとくもと。

しかるに和尚の和は
いろいろとぐしきもの
はべるなり

ゆえ死というふるとたの
をめをしら生と和してい
えどりしゆえとまで流
情と結るし

㋕ 死の一字　天竺ひろく
仏とときあひしるいせもあ
死しるさ仏とおさしゑんたも
天竺のあ生も生あるゆえよまく
死あり○又八万四千の法つを
死後の沉論とすくえんたも

年月ひしあに。今は仏門
も入まじ。ゆえ死をまれば。ずこ
しも近くなる物をば。むりがた
がてうびしさせをばしそ
者義一もぷくてやらむとするの
とば部をれ生死を厭ものとす
せいかいどうんやう
㋕ 一聖円上人云八万の法門は死乃
一字とそ。結ば則。死をえきされば
八万の法つとり結ぶ。ひしるもの
よあるせ

㋤ 生といふ人　生をむさが
きば又生死の生とうろ

㋐ 紀あり一世そう
紀いんけそし

仏力と　法然上人のとく人
よし陽法の初機いなく
ども仏とたのみて往生を
べしと仏

㋤ 敬紀房云一生はそぐ生ない
ゆえ人

㋐ 明遍云おの通せれおえ
たのかう。ゆえ同して死をむ
こをを。紀あらしそかしめば
ありしはをばうみむがそきう
よあるも一合を人とうむをう
らずそれようをそも仏力とおぐ
ぎさあり

㋝ 弥性房云死をいそぐ心を人ぶば
世の求一のゆをすをそおくるの

㋕ 臨終

有云、我臨終の時、ハとゝぎす
いまこゝにゆかなどゝ、ゆゝしくこそ
云なれ。しかるに、ひさか命か
きゆるまゝに、くちばゆる事もあり
しかも、命とゝまるさせ
給ぬ。

㋖ 或云、故寂房云、石芳ハ、時節
房法ゝ云、生死ハ、ゆめ
ゆめ、ハ、さまくに、作式作
法をなし、ゆくゝ習ゝをはさしく
をもひあつりてぞ、行ん
と

㋗ 故寂房 故ハ、役故の
ゆゑしりの寂房とゝ
なり
流鏑馬とかくし
る上して的をつくる
ゝ、トかゝ

傳教院房

的遍房

て、ゝ、ゝ、馬を出ハ、相撲
射、あてむと思ふ事ハ、他事なき也
を定ゝ、日ごろハ後世のすゝ
をこゝろゝ、習ゝまゝ、ゝすぐよ
病、よ、のゝみゝ、化会く会ん
して、生をしとゝ、ひ、ゝ、
作し也

㋘ 敬仏上人、家ハ乃石芳ハ、時云
死ぬ、ゝ、傳教都ハ房ハ、佛助ゝ、
思ふ事ハ、ゝ、ゝ、
しもやと、思ひしが、今ゝ、

㋙ 不浄観　けがれ不浄と観じて執着をきらふ

式の法文　要道記にあり　法文の時乃講式

それくるうとをらんゆへかくなり

㋚ ゆしげなる　けゆしハすぐれてかしこきことなり

なをその如へ　なりおかしまた

これハけゆ　愚ドーてけ人

よりどころの方便の示

ちりを不浄観も卒塔婆の時

乃ちと也東城寺ハ阿闍梨房の

式ハ法文を習ハ猿楽とをなじ

てしをあれと云今ハ猿楽

引こと

㋛ 会仏

㋜ 有云恵心僧都伊勢太神

宮へまいりて七日参籠を

はるかの夜ふ宝殿の戸

あけ申をゆしを

なれ貴女一人そたまふ

示云　太神ハ本覚の部へ　常住ノ法性ノ理内

あらはしのみなり　末代の凡生ハ

新乃要道をそなへる事あら

ば弥陀仏を会せしすむべき

ものなり

㋝ 云蓮阿弥陀仏ハ

情文はぞ乃ちまく往生を

一会もとをば会ともなり

ばなよりなり

㋞ 有云後京上人高野ハ奥院

現ありと又ハ入定のうへ

なり

弥陀仏ハ今世ハ

野賀家ハ情ふか会ハを

ふかこびなり

㋟ 人ハ一会　世人一会

ハ会のあるをひハ世ごとのあ

りんくにとれ意してこそ

性生ハすもしくされば信と

一会よりて彼と会ふ

こげしなさ

㋠ 後京上人　高野奥院

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

の時大師の出家したる故事談よんる

寒寞 おもづらの寒し

ひさうよ たうふきこゆる

悲哀 悲哀のこゝろ

まちこがれ人のこゝろを

るしひっぐきけりとろ

こゞり

㋒ 敬客 丈雪古 天台宗

言乃学問 ゆ

定規 法法皆定の規会

ゆり

資粮 そなへ

よ七日 紀 約。結 約乃和。深更

にとゝび寄。ようづ寂寞あり

其時八定 仏殿乃うちに

一点会仏乃心。ひっぐふ。まこと

まひ。人 見とまる悲

哀分にあ もの。感涙たゝる

ちゞ ちゞ

㋒ 慈悲 慈悲入滅 後 或人の

義 示云。弥陀 誓乃 誓 たゝ

もの 耳 もたゝ。ほ ゞ

定規 会仏 とゞ。仏世の資

粮

㋓ 法然上人云 色ハ白ク

ラ ラ

㋔ 又云 会仏ハ果海 悲源の

院 界 より 報 舎の 及

ところ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

色ハ仏 彩 ゆ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ ゝ 欣 求 ゝ ゝ ゝ ゝ 容

家 報 信 深 信 ゝ ゝ

㋕ 気味 ハ ゝ 会仏の

ゝ ゝ 耳 ゝ ゝ ゝ ゝ

罪 滅 妄 会 ゝ ゝ

ゝ ゝ 法 西 ゝ

粮 ゝ

㋓ 法然上人云。色白等 仏 報 と

お見 ゝ ゝ ゝ 源 ゝ ゝ ゝ ゝ

仏 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

仏 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

㋔ 又云 会仏の 色 と ゝ く 云 ゝ

ハ 罪 ゝ 浅 事 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

ゝ ゝ 欣 求 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

生 ハ ゝ ん

㋕ 敬日房云。会仏 会 て。会仏 気味

仏 ゝ ゝ

も会れのさいちゝうゝハ
とまきりとわう
㋑ わく行ゝまゝ多ことで
仏教の主罪と接しのふす
右枝とは轆轤とかまつた
うんがどとし 給用使ますれま
地獄わう
㋺ たゝすかうとれやすきゝ
たゞとかしてまもゝもげ
しべ。やすゝとかれて早下げ
するゝあゝを
㋩ ちうんところの若根
縁ありてみたべきゝりくの若
ずゝり一家の人をでの堂とき
て仏とつゝ経とゝき坊ども仏
若せんよちゝとゝ人家とも
すべ一会仏ともさまらげで
吉法もやゞきばこれ法上人

の四義なり
きゝうハとて 除苦ときゝうゝ
ひさゝう会仏せんがため 除苦
まとがれわゝまハ行ゝば
りすまとて 会仏とゝ人のご
ゝし除苦と春房とすべ
㋥ 義おさ法義よに 会仏法
生ゝ別のゝ伽ゝ浄土宗
の義門なり
㋭ やすきゝとかれてかたすあゝを
他宗のんわきばんまの法生が立ケ
義すゝまゝとゝのゝもんハが邪
の豆悪ゝ早下し心外のつとき
きにつきて法生がむゝ一く
ゝゝとれとゝいまゝ対変定
とゝり人ハ変定なり
と代 法法上人の四滅ねご

㋑ 弘真だ立ゝゝく行かまゝゝ
しゝぜ
㋺ 明禅法師云。法生を大事
なるゝれやすきゝとし
㋩ 宗弘上人云。若等を作か
ん人ハ名号ゝとりれとき
行ずべきにあゝた。それバゝく。
ちうん不の若根ゝ会仏の
障碍とみゝうゝんなゝの事
と。値遇結縁すべきゝり。きゝう
へゝて。いまゝくしきゝれ根ゝを

ゝりゝを法ゝ。行すべきれハとて
会仏のゝとまを入ゝをゝゝば
㋩ 正信上人云。会仏宗ハ義ゝを
義とゝゝゝ也
㋭ 禅法房云。和法浄土門の大
云ハ法生極楽ハやをゝゝとと
仏教ましてがたゝすなゝゝ也やをし
とゝとつまバゝゝりばやとれ
べきせ。法とを代の学生ハ長後
まちくなゝゝ
ば。邪正ゝゝれまんがゝ。法上人の

上人の仰　法然上人の仰し
さうのすれば　それぞれまして
み細ぐまもきすいるるし

(ハ)　そんつをはさて　蓮宗宝
鑑云逢舟渡沈淪之難記
可遅疑上記十因云人値息
難得一方便應早速離何
暇論談行者亦尓且暮難
知不難餘言励色念佛
當自有證上記　妄考すまや
うて北嶽ちかくしたさやく
会仏よりけくだし
なまさうーき　あうちを形よ
もしあぐ様もつさをーんもよ
ちーぷもゆるーあどいしてた
うぐ為会仏やあ別ーえ
なま和ぢうの言葉よさそ
ちうーあり

法はは。そうきの事ぷうんさ
(ハ)　松蔭頭性房云。法はおうあ
ぬるはあひそるよ。えんつみ
はさて。乃ちかりに。別のよ
ぜ生乃愛法をわうんとそよ
み。孫法のたれ新のお私を実相
つ私上ちうい。作伝して精若
すうはうふて。別の相なさや
なまさうき智恵ちう積ぢう
ぬく事仏真實よおりひ知と。
人ごとにすさあと

(ト)　法華四房　明禅法師云
だ一
日本の石をとあるし　日蓮
の法華の行はさぞやづーー
きすあんとちしひつるみき
ちしてこれはぞうちかさき
て会仏せうあくでちくさそよ
奥ちくさ相よよ。かれて
の相をとよはたがしてわく

(チ)　別付まて。あくさと　会仏
若よ三祇の行徳とつすす
ちうの日れ別時とつは
潔齋して会仏すると
用心して　もと月ん会仏
とつ
見仏のちい　乃ち法仏と
人ぞまちんとかて

(ト)　敬仏上人云。ヒ度法院に房
とんてまはちう。四来の取
なとぷあるやぷ分をちを
ちもちう事仏。相ぐ毎くちう
けうも法ちうりもく会仏
すちうはふ不知ちく
(チ)　法上人云。別付まで。ぷく
ちも。六付礼讃の次の会仏
を内ん付年ちを別よ用仏し
て見仏乃男に住すをしと
(リ)　又云。重光上人。法然禅門意中

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

⑪法師の座中にて
ついてうやうやしく合掌して
ひざまづいたりすると
仮名の模範とする
又合掌とは寝食とわを
問人いまだ
うてあくまを
り

㋐又相応　相応和尚の依正二報
のあうると釈する
返答のいたる釈迦の法よ
て示すなまぐさもんめんさえ
ずくもそのその釈なれしか
たりいまの釈ともあるべしと
名とをすべしと
うてさてうす　そのやう
なる至のすとてを

日中に時をさだめる時そ
一又一句をも漏しけてやうて
あみだ仏とは礼讃念仏と
ひしく問答の聴衆
を公ずべき名別は礼讃と
さて

㋐家頼上人云。或人問云。交相
釈は釈迦の法ちたらい稼
名乃り人とはいかもこれと釈
どをいはをもの上人答云。源
空をそ

仏伝稱名　うちかさねて
名とをふるべし

⑪ろよの　ロごろうそんな
ちよぬなんなりこれがうは
法氣なくとも。ただ一ようとせば
うれなうそよ入て逆よ信ん
とうでんしを音叩心と
ようもう

㋐拍手をとれとは　ようも
会佛ようはのはは
身のうちは　士農工商
系代をすと
んの若無　煩悩妄念のち
こうかうね
はは　取捨の系し

⑦十聲一聲　ホれ人
礼賛云上尽二形下至十聲

也。しうきどはうしび
仏伝稱名みり

⑪明禅法師云。そぐく会れ
をべ。ろう　此喩出于運命論
なもどもぷて音あるも

㋐法然上人云。稼名会れ拍
をと拍とは。分は振舞ん
乃若無をもぷはせず。念仏
ようせが。生をすなる

⑦又云。十聲一聲おれて。念
仏を伝ひて　法師。ろく不稱ち

一聲等以佛願力易得往生也
念々不捨者
散善義云行住坐臥不問時
節久近念々不捨者是名正
定之業順彼佛願故也
㋕ 加古教信 加古は播磨
の郡の名 教信のなは俗聞
れ往生記十因なとよみえう
なるとも安せん 安置
信もうこん 妻子あるがゆへ
信ともわろん 利益の形なれど
㋝ 浄土谷 洛東浄土寺山の
麓にあり これ白川の比丘
房なり
資縁省畧 衣食たとへば
くつ まやうまたもつる
釣餌 釣々の餌とわさけ

おいの行を修するに極楽
㋕ 加古教信 加古は播磨
極楽と中とあけあらはすなん
なるとも安せん 置 教信
信もわろず 信ともわろぬ 形よ
て 洛東浄土寺山の麓
して 高野山 高野
㋝ 浄土谷 洛東浄土寺山 資
縁省畧 衣食 釣餌
喰 往生極楽の門とわる
ゆへ 往生の門とわる

ゆへ又
西へゆくとてひとつなる
すぐしたんのまくらの如く
とあるこそ 若年の
心願より極楽と称ずんは
き道節よりたとへもとる
あり 又花のまとも節と
つよそい 往生上人の心ありと
なり ○又脉のまとすぐしよ
めば正統の宗脉のまるもか
ふなり
㋟ 一念十念 十念一念

色をめにかこうとおもふ
念仏行人をみへときい 仮よりも乃
らず 粥をわるぬ 粥
年よりそこなひ日をひく
容顔をとろへ 力かつきぬ 良
友たばねをたりて 行
ず ○これと寂也の示しの附合の説もくし
いつも法道のまゝ多くこのとも
西へ行をとり一ぶふぬがるまバ
骨とはしに分はなりがるを
○安心
㋟ 法然上人云 念十念

極楽よりは乃至十念とあり
称名の人は一念とあり
念仏不捨者　若能如此釈
よりあり

行の信と妨と　口よ名号と。
こころと行とこころ。心よ仏
教とをぬのひと信と
一形　一生涯のこと

㊀ 衰と変とをもはせるやな
ぶくれいあつくれ。ぶくはせ
ぶくやとは極楽往生のこと

是三業よりのんまてい　定定沈
定のたとへよりたびなれども
まさしくその境と見つるなど
乃ち人ちきなり　西来意

煩悩生死とをこと。念仏を疎
相よりは信が妨とぶちまくく
ふかり。念仏不捨者とのこと
こと。一念十念は不定ゆえ
なりのいぶが伝と妨なり。伝と
ば一念よりまとまて。行和だ。
一形をげむべし
㊀ 衰と変とをかせどや
みと。ちは。家形身ゆく。人
そはとぶ伝よ不定げるな。伝
乃ちんよりて。ち余の人

ひとの乃道とをこと。ぶくはせ
ぶくこのこれをとい
とあるもなりくく諺
註よりたとへゆをと
るべし

㊀ 一よの場　一念十念は
しかくびと安心定定せる
人ちんロよ往生ぶくを念と
ぐげむべ。二るの場とこと
ゑ二るとちりひてゆくえば
場のかなとよ義なり

㊀ 煩悩　ぶにかるこ毒し
罪障　形とはとしるこ
悪業なり

ぶくこと。ち時上人う
ちるくの場とくく道義
ん。ちまでそらぐけ
れしいぶをえんをさく
㊀ 衰。ぶの場とこむを。
ぶちんんち。おんと。色
んとぶげむべさり。往生を
和をむ。ぶ定れ伝とこり
てぶちとおひとげむべさり
㊀ 衰。煩悩ぶすくあつきとも。
とりんと。罪障乃ぶあつきこと

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

ちゃにつきて　右京の法花の
もとづくを忘れ法花の
祖師頂戴すが如くなり細川
上人云吳書ちしいまだ
もしも右京の法花にとの
ゝ忘にすぎざる性生のた
ゆやいかゝ　性生　孔孟

㋕一会一会は性生　孔孟
孔の文を引て一会とあり二
会を文とゝびて氣なえ
たりしのしむまり　孔孟
それは一会は二分性生の法
あるべし

㋖仏法会は　此男
八法陽師なりしを上人を
依て求めとゝ
とゝ

㋖みな一会は性生
乃会れば会れ
なりやいかゝ　仏法は
会は一会は性生おてなき
そまんべる　孔孟
性生は業となるなり

㋖みなわの河波なが会れも
源えが会れもまゝて同

とゝ　沙汰
ものみ会れ
つゝて変
㋖みな一会は性生は
乃会れば会れ
なりやいかゝ　仏法は
会は一会は性生おてなき
そまんべる　孔孟
性生は業となるなり

㋖みなわの河波なが会れも
源えが会れもまゝて同

㋕まめやう　正月のまゝて
げゝ　しまるし
一ゝ移り　称じんうを
きべ自性はせとゝ
なり。だゝ一ゝ
ひじかせゝまいあるん

㋕やゝとゝなるい　仏の法
心身ゝきべ変化性生とか
もいはゝ一ゝ。その
きゝて性生はまちがゝ
ゝ

㋖こ井ゝ性生　ちはゝ
て性生のんゝ
必義の中は性上人は

ゝやうの　孔孟
忽ゝ性生ゝ

㋕みな。性生極楽とまめやう
ゝ。世ゝ移りゝ
ゝ性生ゝ
ゝ定ゝ

㋖みな。性生は必定とゝ
定て生ゝ。不定とおりゝ
定なゝ

㋖法性上人は性生は

ゆひきりて会仏のよう
とぞこれ〳〵対の心を義勇

㊐ 箕　笊まとり竹なり
俗ニハ鈔ニ云ク唐韻ニ云ク箕音昆和名乃
箭竹也巳上

ふこめとせされいこくかなり
除物よ用とけ祈ハ者ハ除ケ
えく祈祈すこ

ノ歴縁対境乃名利
縁よ境よ対して自性よ
なる名文利養なり。それい
さのを性生ハ障よあらず

㊋ 助ゆ　文答云ク先師定言
云ク助給阿弥陀佛云ク有時示予ニ
云ク凡諸師之習有最要之言善
導本願往生恵心自明直弁也
弁阿助給阿弥陀佛心思ハ云也ト

寺乃信仁房は愛の中ニ
とそれて対の心を義勇
風情なり。ゆ。ゆ。
こ文ゆひきり
聖光上人ニ。箕とゆ。
ふ。序用と。ふ。ふ。
らも相よ。一向専修ニ
弥。せさ。ば。
ノ文云。凡夫い歴縁対境ニ
名利とハ不義也性性乃
解物よ

実哉此言賢哉此心作願先
師口文落涙千行云ク助給思ハ
滅罪邊籠生善邊収出離
方籠往生方収本願至心信
樂弥无疑殆者歟巳上

㊌ 友上人　法然上人のこと

㊋ 文云。弁阿ハ助ノ人乃係仏
仏と。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。

㊌ 文云。弁阿ハ助ノ人乃係仏
仏と。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。

㊋ 文云友上人のゆ。ゆ。
往生の文ゆ。会仏と。ゆ。
会仏ゆ。ゆ。ゆ。
えて。ゆ。ゆ。
てゆ。ゆ。ゆ。
とゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。

㋮ 法然上人　良忠上人し

て変定　肝要なり一枚起請の不論

しきたりの二字なり

㋯ 浄土宗の元意　教の安心は

三心観経のこんは浄土宗

の一心なり。その一心は法

の一念なり

㋰ 因果と信ずる　他力と

うたがふは邪見なり。因果を

信ずるは正見なり

㋮ 法然上人の宗の心と異せ

ざるを変定して変定往生と

いへばこれ実よりてそ

んをとるし

㋯ 又元浄土宗は元意。他力

へは浄土とかふよりすぐれ

㋰ 又云。りうし　出て鎌倉宗要

ふるは。他力は信ずるを

信ずるは。因果の理ゆる

し。廣義　専修念仏を信

じ。かつて因果を信ぜよ。すか

㋱ 法然上人　もと法然上人し

㋲ 浄土宗　氣のよって

氣づいのもし

法然　ワ身れが教なり

㋳ 法然上人の教は心をひて。往

生をこそ願ふ。

㋴ 禅房　たとい余乃ものをてもむせ

を念仏せ。これとすかれりひ

わりをきこ。余事とも。念仏

せんとぶりしをしこ

㋵ 禅房云。或人問云。私ノ

乃至一念とぶとて。往生

をうしかりて。法然を不顧変

定往生と思ふ。ぞ。

小慈入谷より謁らうき
園田太郎号ニ智明房ト謂
ハあるべし
元祝の一会　そぐ先て
信受せり心会あり
報令　たぐ命の半し
資持記云命之延促宿因
所招故云報命ト已上
然合入道　芝生房
けあ三人　小慈入道芝生
房。孫播房の半し

はべき。答云。祝也。りと謁そりさ。性生。家初め
一会は変定せり。報令下さ
生ぬ。依方の未消ぬるもと
ぬそれき然谷入道もし定り
被下けとあん影。孫播房
み。生あるりの。必死するがごとく。
性生りとて変定し
と被下きるば孫播の性生
とぬげらまれ。ばあこんハ

(工)散漫　散境よんれるこ

上持　すぐまるこ
下持　きのこ
定ぬ孫播伝　明色傍記
いふも　いふとして

同上人面授ハんぐ
枝山教訓也。らうまこバ変定
性生ぬるとて成也　慈心上人問行仙上人答
(五)結西乃知　定房明遍り
奉問云。心ぬ教湯せば。生時
乃構名。答云。りあらばんん。
ぬげふして。乃ら下湯也
とハ法ぬ。ぬうぐ明ぬこと
答云。ぬハ上持ぬてぞいん
定ぬ孫播伝　ばぐどきぬ下持ハ。
公とぬげひ。りぬ。

うるひかぐつきそれば会の法を。
はくしたて。祇園祇園とふ神。く
ひわそしたをしへ。ぺんのちがけま
うん時と。思ちんよそ。法師
会仏ゃさねりのりくそて
いちんどれ
㋐るやのうの遍僧都。若宮寺
系語ろぺ。くりあに。法師上人
り獄ゐ。僧都同ぇ。ぐして
七度。生死とぞうゐ。
上人ろぐ。会仏ゃてしをい。

㋑同行ろく　ものいとどおり
さしけうりぬ　頻納の言

㋐散ん禄ろ　散乱のん
妄会ゆぐつとれ口禄
釈会ユまとかうぐ

同行ろく　禄ぞうり又明遍
ろとぱいぐ行ぐさ上人若ぐ。
妄会。とこれごもぬ乱力りて。
往生すのりり。僧都さうをゐり
ぬそて。生行ぐいぬ上人ぐぷや
さて云ぞ妄会ぐことばしく
往生ちんとなりちん人ぷむま
きつさろ自鼻をゐすて。会仏
ゃうんとぐ。ぐうしし
㋐明遍云。前論ぷ実ぐ。僧都
と禄ぐい。禄ぐと散ん。散ん

もんを云ふすハ　まよ
ひ窓ハ言ふとうけて
るべし　猟俠ハ窓ふべ
して義ふと経よす
るハ性生せぬ人なり

功ハ大切なり　たとひ
悪人なりとも此功とつ先
ハ性生すれり人よさまう
ぜらもて散人とうたぐた
てハ性生ぐるぬし

稱名とりて性生しい
ひとくはこたとろん
は百千万ん言ふ窓ふりず
真源の義理を悟ひも
生かるひぐくはこ死。佛道
功ハ切なり　功ハ切なり
持をぐみくはこ功ハ
さぐくはこ人のうくへど
て変没乃糸。主下の事
なり
（主上のうくにて主君下の事）
㊐ 禄位下云仏力乃強縁よ。

㊐ 一定またけぐるまぬ
一定とは雑色の頭なり。
さぐとは人ぐちこ恐ぐな
どへかはるるし
差様ぐるこ。このしびとか
ぐりまいせんとぐるるるも
うけぐくはもえぐくし

㊐ 会仏たるて　人目ふた
たず名利とりしめ
が至誠心の会仏ても
さうもおきし

あるすをハ
出離せんこしハ生ぐるり。生死を
ぐるまぐり。はこ縁よ。ひ
むるくもぐてハ定まぐう
をさげるまぬしかゆのかり。
ちる生ハ生死とりきうん
とこ生にあるるり

㊐ 心戒上人ハ玉沢ハ
ぐ。或百性乃者ハ
て。会仏たるて
性生とぐべしまく

㋕ 弘性房云。仏性一のゆへにあらずして。真実にあらひしるとゆへになさずしてみな。真実。仏性と。仏なり。

㋙ 法門上人云。いかにあらざるべき。仏乃至一切を信じて。

㋕ 自力のなを　一会義の説

よ法華は一会よりきこえまいらせかはくはんとすれば自力会仏なりとそり上人云れとき

うたせかたられしかはちくしてはをすることかりなく一通し自力なりなをけるとれとなのむんかの知かたりとしてくたかをかうなり

㋕ 弘性房の言て云

しかとまうせて仏とたのもうなれば命を報恩中巻とうべし

㋕ 弘性房云。仏性

とこんとうなり

㋕ 法華上人の説を自力

自力せはかたのむたかをのむたかをくんをたかを

㋕ 明禅法師云。おうぶ会仏

ばかりなりはかりはかりなりはかりなりはかりな

○小児の母と　粒は附さる哭[ナキ]ばかりの哭[ナキ]なり人乃詞とゝ見わるくすべし

㋒ 傍[カタ]なる房　明遍[メイヘン]僧正[ソウジヤウ]

さうたるものの　いうふしの通[トヲ]とも　もハ彰[アラハ]れたる哭[ナキ]なり

よわり哭[ナキ]　常緑[ジヤウリヨク]聞書[キカシガキ]云[イハク]　哭[ナキ]ハ行[ギヤウ]乃[ノ]

やうのよわくいふ[ヒ]ものなり　たゞの哭[ナキ]とハ強[シヒ]てとれとせりく

つゝの哭[ナキ]乃[ノ]ハ[ハ]ゝくさこえ[ヒ]ゆゑ

けたゝへ世[セ]語[ゴ]よ[ヨ]ゝ[ヒ]ハ[ハ]ゝ[ヒ]とを

ゝもかゝゝとゝ[ヒ]ゝ[ヒ]ゝ[ヒ]

㋮ ねゝ[ヒ]つさせん　名利[ミヤウリ]の孫

ゝ[ヒ]ゝ[ヒ]ゝ[ヒ]

㊐ 或人。敬日。解名さ
生生ん要とりてごなんは
へどもぶりとりの聖ふりとりと
ふされて口ぐりよ唱ばいて
べき。答云。四房ぶこれへおり
まさんとつふふりて。立生
あゆませ行よあぐそ。あゆむ
行ぐとふこうまべくとぐりれも
ひのふ。よもあぐど。ありぬと
なとふひくしをあゆとなひ
つ〻ぶぐもぐりゆむあて。屋

㊐ 聖ふのと　弱の弱会
乃事〻
答云　ばたをたとへ人先
ばしくそてくるひ
行る勢用行足ぐてのす
もあとぐ会ぶの行と足に
たとるもぐれある〻

㊅ 人ともりとは　化と数
化せんともりとば
拍よもりとは　仏法のす
世るのすのもからば
還来禄国　若等れ口人
よ還来禄国度人天とは
ま格ぶり三りて成生

まずして。これまぐれたり
たり。ふ定ふり。格ぶよ性生
四とふ形をれたりて怪孫
法乃名等りをとな人行人乃
りはありぬとふかがめす
も。構名やまずて。命経
までり法ぐ。性生変定ふり
ぐし

㊅ あり人云。真言り性生ん
せふぐ。人ともりふんぐ物
りもるばしぐ会

と利益すなり。恵心云、求名願衆身心共疲未功成善悔望弥多不如孤獨無境界不如稱名抱萬事已上

㊁ 名聞利養を悔て
利とともなんぬ
あらんも 法は性生が
きらくてたとし名利の
心もなく智恵もなくとも
うまれ平しと

他力の不思議 み佛の
慈悲はかさす海のごと
しこのゆ秋のちりそれ
ばいうもの悪人しゆすもとら
きびといつすみ。ちく
るよりもいとをなどの罪人

仏をたし。称名ハ還来穢土
と祈すべし

㊁ 弘性房云。仏ぐるを。悔
悪どもとなをすてたぐたり
ちまくなりかしして。平よ名
号とをんと。ねしいちふこと。
さハえてまくみ。悪向と毎
ざかなどのちんりて。平よ
会仏をむとちふ。ぶ。ふと。
実よれいなるん。をすさみり
仏弥陀仏の。仏。他力此石ち義

みをハ注生ーがさうん
とうハ掘りて海とちち
てわうとうえんぐどー

仏力法力 法力とハ名
号ちちとうと
道氣法師云、佛力法力、
三賢十聖亦不能測已上

とパいうぐどをぷりたるやうん人
ごとよ永と化て罪悪此方
とぷりみく佛力法力れ
りひけっぱりみり。名号。罪業
ぷつぷ。ぷまりどぷ。これを
ぷをもぷけ。ぷりさぷみり

標註一言芳談抄二終

㋭紙一枚よ　お離い悟ま
よりゝゝ極行の所要れ。
一紙よりするよ不足かゝ。
あ一枚起続のごゝ
㋮十八道　まこゝ初入の行法
より京明の教よておづく
字輪観　ひの字訳のごゝく字
相の内よ梵字と観ずるこ
ゝよ偈　言こ意みの生
滅々已の寂偈とさて旅
と羅刹の口よりけ
涅槃経よあり

標註一言芳談抄三

○学問

㋭敬仏房云。後世者は遊文を。
紙一枚ゝり。すぎぬゝり
㋮孤生房云。昔。明遍上人
ゝり。あひゝめてまはりて十八道
偈文乃次ゝ。字輪観可
受ゝ而是の要よ。上人和
云。学生智ゝかゝ。古のゝ拾て
称迦佛乃目位ゝを。学生
智ゝかりて八面まず。菊

為虎捨命　薩埵王子の時へ
なる虎とおそれて分とりて
うて食とあるひしり
金光明経のみゆ
まいくしら　はらの字ハすて
よむべし　変定のなりあ
とつゝん　新たとの文よ
をのつゝすしくもあるゝ文れ
日もタれのあしるおよ

(ト)学問のなど　学問する体入のあ
あり。なぐ三ハ時者とり
物及と減ぜん　日本紀にて仏万
及とき云めたる会仏のなどと
くあ入するゝ
会仏を渡せんがためあり
帰元直指云今日有縁得逢
仏法當須究本莫競枝條已上

一言芳談抄卷三

偈投身為虎捨命道心ゝ
てしまぎまいくしの。法を原法ハ
云用乃事也乃ん乃事ハ大切
なれ主ゝ是と取て捨。掃部
部被評之不可なる習志相俗さ

(ト)或人問遍ゝ問云学問のほ
ど皆。会仏を渡せ
と。答云。学問を会仏を渡せ
んがためあり。ゝ数及と減ら
ずとくハ教たくまいゝを

(チ)学問して　渡りとこのまだ
してゝゝゝゝ学問のとこの
ひとをまーて日々一減
ぬし

会仏をとて　いひとんとく
ろゝべー一向ゝ学問とまま
しゝあるよハあしば

かゝば

(チ)聖光上人学問とふ文しく
云。日来学しゝあ人ゝ学
ゝも。捨てこき会仏をバト
これ主ゝさゝゝのわしきゝ
まゝり。会仏とばゝとずし
て学問とすれゝ主等也
会仏とゝくゝとまの動ゝに
ん。さもはるとゝん十六の段
(リ)家教云ますゝふ文のゝ
ゝゝよハ浄土をちく変定

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

⑪ 変定性生のこと　家産

とつては伝よりやげとつてはすと

旅裏としては旅よりの含物

あり。性生のはてこそ性生の

資糧あり

性生の要　性生の支度の

樞要あり

不審　つぶりきまし

性生ものこと　ものこと

ものこと　ものこと

性生ものこと　ものこと

性生ものこと　ものこと

性生

又 往生の業 業ハ業因ゝ

○尺の文 分段 散善義の一心専念の文。選択集の会仏為先の文ゝ

ゝ

有智無智を 五倉漢よ不簡下智與高才とはり又選択集第三章ともろゝ

何の法文なりとせん 恵心僧都ハ唯識ハ浄土と知にとの給ひし。聖覚法印も。大小諸典の義理ハ。百法明門の暴を。まつ思ゝと給ふ也ゝ

ゝと知とゝりおハ 此ゝ砂とよゝ会点すべし

ゝ

ゝを。うけむものを。ねゝ法ゝ

ゝ言。往生の業ゝ。是稱名

といふ。尺の文。分段也。有

智無智と不簡とよと。又

法然ハ。往生。稱名為

ゝ。学問を好とせんよりそ。一向

ゝ。学問をとせ

ゝ。孫法師。観音勢至

ゝ。何の法文。なつせ

ゝ会仏往生

ゝ。会点

ゝ知をとゝりおハ。ゝ

ゝ

ゝ

たばかりあるんよりわいたてて
こそ学問をばすれ。されば遁世
されしをこそ
㋐敬蓮社云。日来ほせのこわ
るりのも学問かぐつまバ大
旨をそ。ひたすらあるすよ
てはるかり。或人。四色得部
よたづるよ。一向りほせの
ためとらりて。志なん学問い
うべき。仰云。始ハほせのため
と。なのをごとも。ほりうハ皆名

㋐武蔵山　多ヤ左衛門尉
俗名ハ蓮記者よりうち
ゆこの上ま　煨のまとわくる
と別ど　ときのうち
ゆうやき　焼味噌ゆり
ゆーしきろ　忌々者とか
くしいまーしきん　詰
よりてゆうろ

よりうかりく被仰云。
来ぐ角りそ山ぬ。
うめたりるが悪ま
いやろ。道せ一ん法ぬ
の上ま。みそやきかどうを
きて。ちみ。あぜひよ
て。きかんずとそ。るし
よりてたんりて。
ゆしぎなる。ありさまう
ていは事。幸きあ遁のう
やそれ。問ん法をばんぶ。

にげこたゝしりすゝにゝ
しきうかり

㊐非人法師　和俗は遁世
の僧とも非人といふなり金剛
宝戒章にもあり
かゝる　そのかゝらひのゝ
ゝ形　かゝるゝゝゝゝ

㊐敬仏房云。非人法師の為
よ。ゝゝ四天王とつくしも。ゝゝ詠
あゝべきゝゝゝゝ。悉曇ゝゝん
りのゝゝ形。性生要集ゝ。もじ大字讀
ゝみ。ゝゝせいの事ゝとして
天竺のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
会仏性生のゝゝゝゝゝゝ

十樂　聖衆來迎。蓮華初開。身相神通。五妙境界。快樂無退。引接結縁。聖衆俱會。見佛聞法。隨心供佛。增進佛道

天下　天下の御ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

故実　史記サ三周公世家ニ
咨於固實徐廣曰固一作故
韋昭曰故實故事之是者
上已

我執　これをがにすること

信心　やめつもること

きたりうんれいだけ
山あ実とゆうまい。故の字
えうりおそ毒ばしてそ。ほ
せよすむ為となりあり
人他とすむ利生のため。
ことにたゆあり。これ往生
事みりとも。我執名字も。
まさる相しりおほしが一向よ
下信心くこれと業毒とさ
ひすもぐ。とうなりう
やっえ一句おっもっえ。

たうこきえ　往生極楽と
もも極親のる

天性　むまれつきのる

まん　まことのこころ　真心

ゆすもとのづく　信心
人とこらて後よ会はせんと
えハ未練のゆたびまず会
佛とゆすぐ　称名ゑす
ゑもばいうふも信ばうごゆ
とうゆ一これハ是後上人
も信ハ聲とぶたまれる
とゆこまり

りして。会れをまめりあび
えほせのゆをぶみぶさって
ぐ相ちりんぶでらゆ
りおがもえば。たうときえ
ぶもとを時ぐいんえあべき
ゆ。天性為をとうかうんかの
そこれなどのる四しおくとも
一向稱名すべきやぶと。まん
りそげまハ菩の幸きう。
たんをうゆ。信心ハも。
ゆすもぶそのげうあうる

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

世ハ世ハ　智あるものゝ
きれば　ゼム　とゝ　ば　辯論
世ますぐゝこしまなのゝ
とかゝぬ人ハ世ハ世ハ
蛇のゝと蛇ゝ　世話よりも
智論　倡曰ノ智人ハ能知
智ノ知ノ蛇ノ知蛇足ヲ已上

㋕本朝ノ説ハ　説ハ説令
説依ノ

○ゝ云ハ世の学問ハ。ハ老ハ
あひてすべき也。ハ世者
学生ハ人と接ずして
しきせ。蛇のゝとハ蛇ゝ
やうゝ。ハ世の事とて。ハ
世者ゝ。ゝるゝ。たゝひ。
んとゞ接ずるまでいなくとも。
人の欲をまつゝ。ゝむ物
とハ。あひかまへくゝ
不持ゝ

㋕中茎房云。本朝ノ説ハ説令

中茎房　山初ノ人ハ
人ハ人ハ人ハ
ゝむとゝ魔ノ人ハ
ひゝゝ魔ノ人ハ
ゝゝ

㋕和漢の文字
みゝり

を信じて。ゝむ上ハ。会ハ恵の
教文の也。ゝて。ゝよむ。ゝ
て。ゝゝ入ハ事ハ。ハ人
ゝ魔ゝて。ゝゝ
㋕恐ハ法ハ。和漢の文字
みゝて。ハ。ハ。ハ名
用ゝ。
○教ハ房云。ハ世ハ代法ハ。
ゝゝゝて。ゝゝ
かゝゝ也
○用心

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

㊇上扇ハ下扇より
おもくのはゞとして住ゝ
を上扇とゝひ下ゲ其の傍を
下扇とゝいふ

㊇弘性房云。ひとを性と
おもふものゝ。上扇ハ下扇より
おもり。智恵ハ愚者より
性人を貧人よりおもり。紙ある
ものを。白紙にしてなし
とせ人。これよりかゝわり
成を。高野聖にそ。
中ほも。白そうをおしか
ごと梵字一をゝすてゝ。名利
を捨るおもひ。ある紙を
ぬものとそうをおもふ

名利を捨ること云ゝ
後生者云ゝのうつくしのむ
しの人よりなどゝ山林よりて
も錦とたすを冠と云ゝ
ものすゝてハわらをぬこゝ
をれバとのづゝ世をむさが
るよりもたゝるふ
ものゝ。ふうしん
法性上人云ゝ自分安穏ゝ
て会仏性生をこゝんがなゝ
くゝるもゝ会仏の助業也
上要集云ゝ凡夫行人要須
衣食此雖少縁能辨大事
裸餓不安道法正記上

うたてきことかり。紙ハ三
十年。さ紙のすゝ
かりひかゝ。ゝ
ぬものゝ紙ゝて。ある
名利と捨るをいとゝて。
同行とゝらず。紙衣ひと
りゝをゝて。きかなどの事
とゝいふ。ぱうしゝなどの
名利を。世をすゝ
かり。
㊇明禅法京云。ゝ

㋑ 明徳は今云 ことしく遁世だくとあるこんげんなり さあるべし

㋒ ちうこうこうきこうり
ちさくをこれはさくりぶ
しるはこれ能ありこもまと
さだよはくばはそふけざさ

㋓ はいうきはせ物語 あるぶ
ちよ徳釈ともいず。きのこ四
巻よもとものびじ重よ生犯
五学のまをかくりて反ん
とそぜまんとあり
いしく孫ひ
うあり よき孫ひ
うの骸とはあり はせえん
の乱あどひはうとし

世はたすうむと思えんは
あて遁せだくや井一のよう
あきうまてをけうで
㋔ 又云。ひとりをうきぶ
ようきあるり
㋕ 敬仏上人乃ようてぶ
はせ門乃事よはさてあう
まりしきうごを孫ひあ
ひうりあり。或云 椎尾 門 亦太郎
なきはぶ せ物語。上人感云。
いみぶ孫ぶりその髄をを

敬蔵二祖の見変をおそ
汝得吾髄とのさまひ
偈 炉頭よう
㋖ ちうこうはあうんけをがさき
分命とりまんせよまを

㋗ いうを教も ムいいうむも
分とうりそうんぶを
報恩の因縁ちうしの
んう

そう事ぶ ちくだう
ば
㋘ 又云。ぶくばうをあ
すつう分をお離乃ためはて
て寒熱よを病患りを。ようさ
はをを有がさ一初乃ひ
生ぶ。ぶうをぶやうあう人
乃をがぶさあり
㋙ 敬蓮祖云。ぶ教も孫
紫かぶとぞ二をこを。ひきさ
ぞて可はかぶ公をぶうをう

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

㋐ 往生の業をとりてとなへ人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

㋐ 敷位房　資緣の義を
をやめしのすがた
資緣　衣食住のたすけ
怖を　祈ひのぞきかり
又自然よりあらはれたる
仏菩提を乃説ずしく
白毫相の緣類となまる
ゆへよりかれ
ものの
いふも　いうやうも

乃どかよ。ぼせをつて先すれば。
きハ仏そそをがてさるがてこれ
をやめしておやしてり。資緣乃有
云ふ。ぼせのかぎりの
怖をかうしく緣ならう
乃怖しらをかうしく緣ならう
かり。そぐ怖せでらで大切
なる。又自然よ。ぼせをかりて人出離
の生死のかりそをふりしいふ
もあるばあまとでらまるえん

諸乃供養

云ふ諸供養中法供養最
所謂如説修行供養。乃至
不離菩提心供養已上

衣食とかり血
肉乃分ける

仏世のてめよりこうれよ
この世代仏ハ乃衣食を
たるすしてて仏世のすも
かりくねじほぜう小芝と
出離のすることをきまつ

㋒ 本とうるとあごも
芝ハ仏と軽しばきべ

乃ぼはよ仏すりかり。仏乃
仏公よ表ふふかく緣乃代
表かるる事。そぐいうも出
離乃ふ。おこしすあ
を仏よ。緣をかりぼすこと
なをきを事衣世るかりに
たるぐひていてみりも天事が
かよりておしてぼ世のぼと
仏よ。なるべきを拭よるる
を。こ下乃ことかり

㋒ 又ぼ世ぼとよりのいを

よの人〻をすゝめハ我が
ものゝよりなる世俗ハ我と
おもひて世をとりぬ世せん
ハ法師のなるよりといとゝ
なり

㊐公語よ　禁中ハ公卿方へ
めさまてまいりて　内裏へ祈
りハ仏へ　持明院ハ
いまさらまいらるゝ
かゝハ対なり

一源院　人王六十六代
一向　ひさすなり
弘誓　天台宗言等なり
白河院　七十二代の帝
鳥羽院　七十四代

㊐或人物語云。法宗乃学生。
仏法ハ　禁中ハ　院ハ
ぬるまでまいらせ給ハ
ぬ。ぬるまでまいらせ給ハ
ぬ。ぬるまでまいらせ給ハ
ぬ。

㋔上洛の時　高野山より
京へのぼりもし
もし乃世をもれぬるまゝ
もし乃人もれぬるとゝ
とゝ乃世間乃利地乃とゝ
ゝこれなとゝもすれとも
きゝ人の心をたゝるもの
なり

世をのさね　天性その骨
とゝはたらくとゝ乃世間
乃ほうとゝるゝ卯酉も新しき
とゝはとゝとゝへず因そのの
ほうもん利とのそむりの
ゝれぶ小ほうの内ちゝ高ゝ
てゝきゝとゝんとゝうゝ
いまて世ゝの身ハ色く

㋔数仏房。上洛乃時。京乃房
僧道房ゝ。穢ゝ。むゝ乃ほ
世者ゝ振舞事と。今ゝほ世ゝ
乃風情ゝ人ハほ世をおゝん
ゝ。ゝかゝりハゝ。昔乃
ゝ乃ほうしあいてハ
しゝ。ゝ。ゝ乃ゝ。ほ世者乃
乃ゝゝゝ。ほ世者
ゝハしゝ。今ゝゝ
ゝ乃ゝ。ほ世者乃
ゝねとゝ乃ゝあひてハゝ
ゝ。数仏
房ゝ。ほ世ゝ
振

ゝ乃ゝ。ほ世者
ゝ。数仏房。奥州乃かゝ
乃ゝゝ。ゝ高ゝ
ゝ。大ほう
ゝ乃ゝ
ゝゝ。ゝ
ゝゝ。数仏房ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ

ゝ。ゝ
ゝ。ゝ
ゝ。ゝ

㋮やまとき　ゐやまとき

ひまある為　ものあり

為ひまある為　ものあり

為ひまなれバいとまなる

らずゐんもゐるらずゐんも

滅ぼしすまぬ

㋯人のよろこ　人のよろこ

ひとのよろこびを自身よろこぶ

ゐるもよろこぶ　ゐるもよろこ

ぶ　ゐるもよろこ

とゐるもよろこ　ゐるもよろこ

とゐるもよろこ　ゐるもよろこ

とゐるもよろこ

㋓ 天地い　天地りの心ずして口吟とこるとれ万物を
ものも要よたぬ　形よに
てバ名利のんこうしていこ
ら形よたる猛ばんこづくり
弟子こまりて仏々と法す
るもの

㋔ 至法師　世すて人のも

㋐ 功徳よ接する　仏とつく。
るとたてのみ。真俗のも
よかるる人ごめのこざ一ハ生を
ものもるよ立て欲心もか
こう。ひ身よ八うこ。ひ世
ものこめこる。ひまもなてこて
よくくよりてこんも退
悔すること

㋕ 人ハ。ひくたりごこ。ひ
仏事を要あるよそぬ方法あり
たるん大要あり事也

㋖ 明師法師　乃今
生よ徳と。ひこく事ハ大略ひ
世乃ぬ法よ八ずてものあり

㋐ 人ハ。至法師ハ。功徳よ接ず
あり。功徳と。ひ法師ハ。功徳よ接ず
要とこ。ひこ。ひ八ものこ。ひ
㋗ 人ハ。利益ハ。ひ元生とて。ひく
しをせ。ひこ。ひこ。ひ。生死

㋙ ちやせまーせてやわほ
なすこさうやもこさうあり毛
ぬの何よあったんて豆るき
ヨハあったあこさうとしこ
しなるこ。ひ。ひ。ひ

㊀寃竟のすゑ　世を捨て肝要の事

分ばかりにて分とたくはへてば憂執貪欲憍慢名聞ものどおのづからうせもすべし分相応もつとも分ばかりにて名利の小花とん[illegible]なり。出離の大志とたるべきなり

㊁人とは人の捨てまじき物

[illegible]。[illegible]。[illegible]人の恭敬とうぬぼれ信施をとうれば[illegible]

㊂同上人。或同明遍。世捨の寃竟乃事。知恩院云。

分いつくしてたのしてたくさんの見し

㊃明禅法師云。世をたすけらむと。たゞ[illegible]のいかまんて。人めをけづるばかりのみ。人とは人の捨ずる

㊄家教上人云。山の[illegible]肝要し。[illegible]人めをかりもといまりめらるゝ言はかれたわれわれに人目とたのび世をたゞひすれば[illegible]の悔[illegible]なんよりもとの及のるとたゞ[illegible]

助業　会[illegible]のうち[illegible]をすむるわざと助業とい[illegible]と[illegible]と歌ど礼[illegible]六時礼[illegible]

㊅新[illegible]上人云。仏法乃。法をかたるとばかりさるよりひそれぞ[illegible]ぞよ悔[illegible]なる業[illegible]たとへば[illegible]場へ[illegible]ずして[illegible]会[illegible]とすれ[illegible]ぞ[illegible]くこそあるね[illegible]ちよはやがて祈りぐこと。さればこそ[illegible]ばかりまを[illegible]とすむそあり

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

㊂ 稠林よ　行事鈔云、偏以其心邪曲難可拔濟、如曲林曳曲木故不得入佛法中上已
資持記云稠林曲木喩其難拔。稠即密也上已

㊁ ひとりぬけてゆくべし
若知識　悟ゆ辯曰ゆくに
ほせんあるべしと若知識
とゆく

助業ハ大切也。
㊂ 敬仏房云。過世をいとハ。稠林ゆ。竹をとりがごとく。拔よ
かゆ。をらきぬるゆゑ
明禪法師云。下ゆ。ひとりぬ。孫ゆ
ひぬるハ。ようなる徳ハ。みそれ
ゆゑ。失がなきゆゑ
㊁ 解脫上人云。出離ハ三障
あり。一ハ不相の愛執。二ハ
ゆゑ。身命を。おし
む。三ハ。若知識の教ゆ

㊄ 玄智ゆ云。たきかこ
だてがやうなるものゆ。をそれを
一枚紙のごとく。玄智の身ゆ
ひとりべしとの法かほし

㊀ 有云　行者用心集よりと
引てあんの歌とゆ

よるよりてゆけくべし
禪閑策進云、伊菴、惟禪師用切甚銳至曉必流淚曰、今日又只恁麼空過、未知来日、工夫如何上已○山菴雜録云、温列壽昌、絶照輝公、偈云、工夫未到方圓地、幾度憑欄獨自愁。今日是三明日、四雪霜容易上人頭上已○室日上人朝夕詠ゆ
ゆ。ゆ。ゆ。

汚穢よみるすべ光もむる
くそもんとすん
山里のメだれのかねろこゑと
よすもれぬまくぞ行き

(モ)いろつごと　使言と云
をしゑ入るきおがろのすし
龍舒居士云ロ誦佛名如吐珠玉
ロ宣教化如放光明ロ談無益

と。梅を。乃ゆよバ。生死を夢
とゝ。恵会思惟乃ゆ。ゆ。
みをあぜて会仏すをし
冠神麿縁およ。おさてく。恵
悲を。ゆこして利益とあゝ
隆伏の言ばをたとゝ
鬢ハ美ハ花のそもぬ。ひく。ゝ仏
をよすゝむ。留あゝ梅也ゆさゞ
か。ゆくよ。あく葉とまた
(モ)仏仏房云。花をよ仏花と
ゝ口葉ゝてゝて感梅すべき

(セ)ゝとゝうゝゝゝ黒バ　髪
とゝうとゝれバし
説法師　説法ゝゝ
尺論　釈摩訶衍論のゝし
起信論の末論ゝゝ真言宗
よてゝゝゝよ和ゝ

如嚼木屑ロ好戯謔如掉
刀釼ロ道穢語如流蛆虫上

よいたづゝごゝゝおゝびまゝいる
れゝとよ
(セ)教化房云。を来ゝ遍世の人
をゝバゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝ生ゝ説法師とゝ
る聖よゝ。ゝゝゝつをバゝゝゝ
さゝゝ法師ゝゝゝ天論の
ゝ生ゝゝゝゝ。或ゝゝゝ
ゝし文字だよゝゝゝ。
ゝのゝをゝゝ。梵漢さ
ゝてゝゝ。書ゝゝゝゝ

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

梵漢さうてい　梵字も漢字も大方よかくを

ありかくを也　ありかるこ

そうとうかとうせんかハ

そうといすざきしるしもし

りるとかよもやとしむ

あひそうかり。然る。生死

界を厭ふ。をそれ。怪世乃

はと先と。いそがしくする程

なる事ハ。さきあるくがが

たさせやとりかどさ

ヨせん河いうとも。ぜんぜ

だ。うをむこうたしをじせ。おが

ゆる程なると。れが桃名ゆん。蓋

さんをさんこうなるひそう

せ。楽が過世しまり。ぜ

でハ程をしれ乃じをれよ。あ

大系言葉

大系ハ良也

上人ゆ乃ありの事と

る形ハ大師ゆ梵字の

事と

ひとの子すそ

ひうの子すそ

よむへしうなのん

ほをだよもこそすきこ

とりとしる事ハうたてしき

すかりとしるあひあひ

あひぐ。世間出世ゆ

と生れ義能をあり生

死乃組桃とをあくはわよ

ほを也あるをありめぐく。

ちくも。そをかく

てをおひうまくてどわき

でこ乃をなりひしうそれバ大

系言形よをくしくぽりし

うごき。あり。梵字一字。
あり。なぞ。やみ。あり。
そぞ。こそ。をかしてもすぎ
ひゐれが。ほ世代をめりハ
ときあり。

㋙ 人とおもくこそ おハゆの
なし

㋚ 貪愛 財色の二よ通じ
淨心誠観云文欲修道於
三業中先斷財色二種若不

貪財即無諂諍若不貪色
即無熱惱記

㋛ 依捕定 色ハ芝安の板
りなの奥書あり捕定な
人で考へるべし
或云仏弘和尚よ古本あり
徹書記の筆し色ハその外
奥書あり朱印よ正徹と
ありそ

ふ。貪愛ふ。ふずざたるふる。
西乃さりあ貪とそ。
う。

㋛ 依捕定所望 紀去り早速
于時寛正廿四載孟夏上絃之比
類齢五十五
洛下田畔野叟 朱印

標註一言芳談抄卷廿三終

和州 法寺什物

国立国会図書館 タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h
ガラス使用

元禄二巳歳初春
京都綾小路烏丸

国立国会図書館　タイトル『標註一言放談抄 : 3巻』 請求記号 188.64-Ta896h-h

ガラス使用